

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 29

ASEAN グローバルプログラム

加田 絢美
Ayami KADA
物質化学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日～9月6日に行われた、ベトナムのハノイ、シンガポールにて10日間のASEANグローバルプログラムに参加した。その具体的な日程を表1に示す。

表1 プログラムの日程

8月28日(火)	出国, ハノイ着
8月29日(水)	企業見学
8月30日(木) 31日(金)	ハノイ工業大学の学生とのPBL
9月1日(土)	自由行動
9月2日(日)	ハノイ発, シンガポール着 企業見学
9月3日(月)	南洋工科大学での各種プログラム
9月4日(火)	企業見学 講演会
9月5日(水)	シンガポール発, ホーチミン着
9月6日(木)	帰国

同じ東南アジアに属するベトナムとシンガポールであるが、GDPや言語や平均寿命は全く異なり、日本との違いや両国間の違いに圧倒された。ハノイ工業大学の学生とのPBLでは、こちらが作成したアンケート調査にとっても協力的で、同世代ということもあり話やすく交流も深められ、とても有意義な2日間であった。

企業訪問では、両国で様々な分野の企業に行ったり、講演を聞くことができた。どの企業や企業人も未来を見据え、そこにありそうなビジネスチャンスを見出しているようだった。

南洋工科大学は世界トップ50に入る大学である理由が、行ってすぐに納得できた。多くの人がPCを使いこなして課題をこなし、様々な人種の人々が

話しあい、授業に真剣に聞き入っているのに触れたからだ。同じ大学生として、見習わなくてはならないことにたくさん気づけた。

今回、台風21号の影響で、急遽、帰りの到着空港が関西空港から成田空港に変更されるというハプニングもあったが、とても有意義な10日間であった。

2. 参加目的

私は高校1年生の時に、カナダで2週間ほどホームステイをする経験をしている。そのときから海外が好きだった。また、夢と自分の適性が理系であったため、理工学部に進学することを決めた。よって、高校時代から「理工系の学部特有の留学プログラムがあったら、参加したい。理系だからこそ行く意味がある海外プログラムがあるはずだ。」と考え、探していたため、このASEANグローバルプログラムに飛びついた。

今回の私の目標としては、

1. 理系だからこそその海外留学をすることで、高校時代に得られなかったものを得ること
2. 海外で働くことについて考えること

であった。

3. 研修内容

私が特に印象に残っているのは、このプログラムの最後の企画であった、「シンガポールで働く日本人ビジネスマンとの交流会」であった。

この企画は二部構成であり、一部は、4人のシンガポールの日本人ビジネスマンと15分ずつ話すというもの、二部は、投資家である加藤順彦氏の講演会であった。

3.1 日本人ビジネスマンとの交流会

一部は、今でも1人15分であったことが悔やまれるくらい、4名のビジネスパーソンがとても面白

い方だった。全員が違う経歴の持ち主で、共通していたのは、シンガポールで働いているということのみであった。龍谷大学出身の方もいらっしゃれば、女性の方もいらっしゃったり、今までいくつも会社を作った方もいらっしゃれば、最近、海外で働き始めた方もいらっしゃった。私は全員に質問した。

4人の話を聞いて学んだことは、

- ・日本はシンガポールより福利厚生が良い
- ・妊婦のまま働くなら、シンガポールの方がいい
- ・留学やアルバイトなど今しかできないことは行う
- ・いろんな人の話を聞き、多くの情報を得るべき

どの内容も自分の今までの知識にないものや、そうかなと思っていても実行できずにいたことばかりだった。他の訪問先でも様々な方にお話を伺う機会があった。このように、様々な方に真剣に海外でのビジネスについて聞けるのは、ASEAN グローバルプログラムならではのと思う。

3.2 加藤順彦さんの講演会

始まる前は、『若者よ、アジアのウミガメとなれ』という講演会のタイトルの意味がよくわからなかった。しかし、講演会が始まって、加藤氏が話し始めてすぐに圧倒された。加藤氏は、とてもパワフルであり、カリスマ性を持っておられ、人を惹きつける人であり、その勢いで日本を揺さぶる、というのがタイトルの意味であることが分かった。

この講演会は、ASEAN グローバルプログラムの最後の企画であることが納得できる内容だった。今は増えつつあるが、昔では珍しい学生起業家であった。加藤氏であるが、その後の経歴も、今の私にはとてもできないような、しっかりと未来を見据えた

起業・投資をいくつもされていた。人生は必ずしも成功ばかりではない。しかし加藤氏は、失敗を失敗のままに終わらせず、次の事業にしっかりと活かされていた。

投資家の加藤氏の話は、一見、理工学部の私たちに関係のないように思えるかもしれないが、それは違った。共通する大事な点がいくつもあった。

加藤氏が仰った中で印象深い言葉に、『元々あった産業に、そのまま新規参入するのは難しい。新しさを加えなければ、その企業は成長しない。』というものがあつた。私たちがこれから行う研究も実にそうであると思った。人が行なった研究をただ真似して行うことから得られるものは少ない。新たに行うからこそ意味がある。

今の自分や将来について考えさせられるような講演会であった。ASEAN グローバルプログラムの最後に加藤氏に出会い、話が聞けてよかった。

4. おわりに

私の座右の銘は、『視野を広く持つ』である。

今回のASEAN グローバルプログラムは、私の視野を大いに広げてくれた。毎日新しい発見の連続で、この期間の1日は、日本で過ごす1日よりもとても充実していた。

これから海外に部署を持つ日本企業も増えるだろう。私達が海外で働く可能性も大いにある。広い視野を持ち、多角的に物事を考えて行かなければ、技術者が新たなモノづくりをしていくのは不可能であると思う。今回のプログラムでは、改めて自分の将来や国際社会の未来について考えるきっかけを得られた。

今回のプログラムは、様々な企業や大学の協力で開催している。この場を借りてプログラムを構成いただいた多くの方に感謝を述べたい。